▼最優秀賞受賞作品（俳句）

秋澄めり

北岡礼子

歩みゆくほどに秋麗きはまりぬ
さよならも言へぬ別れや秋澄めり
銀やんま風の河原をかけぬけぬ
里山の風の明るしこぼれ萩
数珠玉に遠き日あり風の声
ひかり浴びひかりて消ゆる露の玉
胸深く秘めたる思ひ吾亦紅
啄木鳥の叩くこだまや朝の森

▼最優秀賞受賞作品（川柳）

花と生きる

坂山　繁

一輪の花に元気をもらう朝
アホやなあ泣けば悩みは消えるのに
仮免許のままでこの世を生きている
夏バテにウナギ買えずに梅茶漬け
手を抜いた花はやっぱりミニサイズ
ここ一番アホになるのは難しい
花の名を尋ねず通り過ぎる風
B級の余生を花と生きている